

珍種サクライソウ *Protolirion sakurairi* (Makino) Dandy

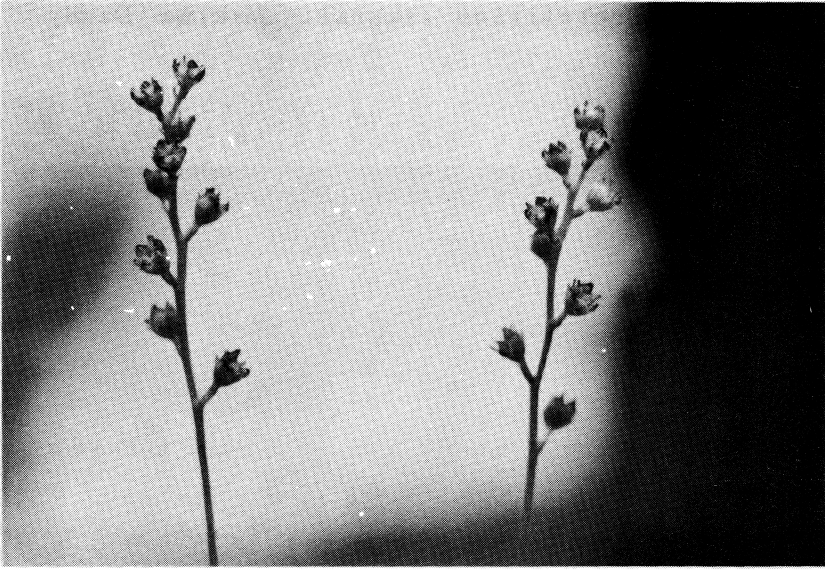
福井県に自生す

若杉孝生



昨年(48年)9月2日、国立科学博物館と福井市立郷土自然科学博物館との合同観察会が終つて一息いれたころ、懸案のカンアオイの調査に永平寺町のある山中に入つたときのことである。この日は身体の調子もあまりよくなく、俄雨にもふられ、目差すカンアオイも見つからないまゝそろそろ引きあげようと思つていたとき、最後の地点で意外なものが目についた。雨上りの西日がさしこむ疎林の林床にたまつた落葉のなかに、一本の藁くずのようなものが突つ立つている。高さは10cm位でよほど注意しないとまず踏みつけてしまうことは間違いない。何の枯れたものなのだろうと目をこらしてみると、藁くずどころではない。小さいながらも立派に、花期の終り頃らしい花被とふくらんだ子房がついている。しかし葉はほとんど目立たない。この異様な姿に一瞬とまどつたが、どこかで見たことがあるようなので記憶をたどつてみるが、なかなか思い出せない。ふと、これはあのサクライソウではないかと思ひつき、あわてて周囲を探すと、やや離れた処にもポツンポツンと二三本生育しているのが見られた。まさかと思ひながらも、さらに周辺をよく探してみると、それ程数多くではないが、たしかにこの辺りが生育地らしく、かなりの広さで更に数本を確認することが出来た。日も暮れかかりこれ以上の調査も不可能になつたのでひとまず引きあげることにし、つゞいて9日に再び現地をたずね、生育場所がさらに広いことを確認した。

サクライソウ属は、マレー半島と中国南部、それに日本に3種があるとされ、サクライソウ(*P. sakurairi*)の産地は岐阜県・京都府及び奄美大島に限られるようである。日本での確認は、文化文政のころ、名古屋の本草家水谷豊文が恵那山で採集したのが最初とされているが、明治



になつて桜井半三郎が同じく恵那山で採つたものに牧野富太郎博士がサクライソウの名を与え、*Miyoshia sakuraii* Makino の学名で発表したのはよく知られている通りである。岐阜県では、その後可児郡久々利でも見出され、大正9年、国の天然記念物として指定された。しかし、これは伊勢湾台風などの影響でほとんどが消えて指定が解除され、その後その隣接地に多数の生育が確認されて昭和44年に再び指定され保護されている。

サクライソウは、ユリ科のなかで、もつとも原始的な群として位置づけられており、疎林の比較的陰湿な処や、やまぐぼんだ処に生育する腐生の多年生草本で、高さは10cm内外、根茎が鱗片でおおわれ、淡黄褐色の茎には数個の鱗片状の葉がつき、茎の先に数個の径4mmばかりの小さな花を



総状につける。花被片は6枚で外片は小さく内片の半分ぐらい。雄しべは6本。茎は冬を越してもそのままついている。

さきにものべたように、岐阜県ではサクライソウを天然記念物として保護しているが、保護指定が破壊につながるおそれのある現状では、福井県では殊更注意を喚起するまでもなく、そのまま自然の状態にしておくのがよいのではないだろうかと考えられる。全草小さく、保護色にみちているし、とくに目立つ花をつけるわけでもないのだから。いずれにしても、福井県のフロラに珍種が一つ加わったことになるが、これはサクライソウの新しい北限地を意味するものである。岐阜県と福井県につながりをもつたこのサクライソウ、もつと注意してみれば、吉田郡永平寺町以外でも見つかるかも知れない。（三葉の写真はいずれも9月9日撮影のもの）

（附記） サクライソウの同定については、前川文夫先生にお世話になり、またいろいろ有益なご教示もいただきました。記して謝意を表します。

（参考文献） 文化庁文化財保護部監修〈天然記念物事典〉 他。